



# RID2790 八千代RO 卓話]

クラブの活性化について

宇佐見 透(PDG 2014-15)

2020年3月26日

# 今年度RIテーマ

## Rotary Opens Opportunities

“ロータリーは機会の扉を開く”

「オポチュニト」とはこれまた難しい単語ですが、解り易い逸話を聞きました。それはオポチュニトを名乗る神様は前髪しかなく、後ろ髪が無かったそうです。ですからオポチュニテスの神様を捕まえるには前髪をしっかりと掴まないと後ろ髪が無いので掴むことが出来ません。チャンス到来と思ったら躊躇せずに、しっかりと掴まないとチャンスは二度ときませんよ！という戒めの単語がオプチュニティスだそうです。



# [ロータリーを知るためのR情報研修会]

1. 入会3年未満の若い会員が対象
2. 講師による卓話を中心（パストガバナーへの忖度？）
3. ロータリーの基礎知識（個人的解釈による弊害も含め）
4. グループ内クラブ代表による意見交換
5. 奉仕活動の具体的事例発表
6. テーブル毎でのバズセッション

# [クラブが活性化している？どんなクラブ？]

1. 例会への出席率が高いクラブ
2. 奉仕プロジェクトの内容や会員参加者の多いクラブ
3. クラブ主催の親睦行事への会員参加率が高いクラブ
4. ベテラン会員と新人会員の融合が満たされているクラブ
5. R財団や米山奨学会へのクラブ寄付額が盛んなクラブ

いずれも大切な事ですが➡「本質」では無い様に思える

# [ロータリーは以前、何故輝いていたのでしょうか？]

クラブ活性化と会員増強は「皆出席」に裏付けられており例会出席の重要性を皆で共有していた

出席は絶対で、SAAにより遅刻及び途中退席のチェックが厳しく行われ、度重なると退会勧告を受ける場合も。

理解出来ずとも出席し、参加したセミナーの場数から徐々に理解。

**先輩の背中を追いかけて、良き先輩に育てられた。**

# [出席率の重要性和クラブの活性化]

欠席した際のメーキャップカード提出(例会前後1週間)は特に厳しく課されました。

欠席した場合は出席委員長、クラブ幹事、先輩達、からの指導もありました。

## [出席率の重要性和クラブの活性化]

昨今の規定審議会決議からは、例会出席が緩くなっている気配を感じる。

例会開催が減ることで、会員の出席意識は更に高まるのか注意深く見守る必要性

# [歴史を振り返って“東京クラブの誕生”]

## 東京ロータリークラブの誕生

大正9年(1920年)10月20日 ➡ 三井銀行役員米山梅吉翁により設立総会を開催

会長・・・米山梅吉(銀行の取締役、且つ経済界のトップリーダー)

幹事・・・福島喜三次(日本人最初のロータリアン)

チャーターメンバー24名で例会は月例会とし毎月1回第2水曜日に開催

国際ロータリー連合会へ加盟申請

大正10年(1921年)4月1日 ➡ 国際ロータリー連合会より登録番号855番にて  
加盟承認(第4回例会)





# 歴史が語る “世界に広がるロータリー”

シカゴクラブが1905年に創設され、瞬く間に全米に広がる

1910年には全米で16のクラブまで拡大。

1910年10月には全米以外、隣国カナダ(ウェニペグ)へと拡大し

瞬く間に全世界へと広がる。

シカゴクラブ創設から16年を経て

1921年(大正10年)4月1日 → 東京クラブは国際ロータリー連合会より

登録番号855番にて加盟承認(第4回例会)

島国日本は、明治から大正へと変りやっと近代化が始まったばかりです。

## [日本ロータリーの変遷 1]

設立総会は公爵伯爵と政財界の重鎮で華やかと思いきや25名中10名が欠席、14名出席率58.3%の低調さ。

翌月11月10日には通常例会が開かれ、年末年始のため12月、1月を休会。第2回通常例会は翌年大正11年2月9日開催としたそうです。会員選考、例会記録、連絡、など全て英語が基本であったことから 会員によるロータリーに対する関心が薄く、出席率も低調の状況が続いた様子

## [日本ロータリーの変遷 2]

設立から丸3年経た大正12年(1923)9月1日、関東大震災に見舞われます



震災から3日後の9月4日 本部からの25,000ドルを始め、世界17地域503クラブから総額89,000の義援金が届きます。(現在の貨幣価値で約18億円位に相当するという)

## [日本ロータリーの変遷 3]

ロータリーの本質を知った会員諸氏は米山梅吉翁とロータリーの偉大さに驚き、即座に例会の開催を毎月から毎週水曜日に変え自ら災害復興に乗り出す。

(被災孤児施設の建設他様々な社会奉仕活動を展開)

これらの社会奉仕活動は新聞に大々的に報道され、ロータリーの知名度は世間に知れ渡りロータリークラブの存在は大きく前進。

# [日本ロータリーの変遷 4]

## [時代は大正から昭和へ]

**昭和 4年**・・・ 世界恐慌から植民地を求め軍部が台頭

**昭和 6年**・・・ 満州事変

**昭和 7年**・・・ 陸軍将校による5・15事件

**昭和 8年**・・・ 日本は国際連盟から脱退

**昭和11年**・・・ 陸軍将校による2・26事件

**昭和13年**・・・ 第2次世界大戦(欧州)が勃発

**昭和16年**・・・ 日本も真珠湾攻撃から太平洋戦争に参戦

# [日本ロータリーの変遷 5]

## [時代は戦中から終戦へ]

昭和15年・・・戦時中の米英排除の機運から東京クラブは解散

(例会日が水曜日だったことから名前を「水曜会」と変え水面下で秘かに活動を継続)

昭和20年・・・8月15日、悪夢の大戦が終結

昭和21年・・・4月に米山翁、9月に福島翁共に他界

昭和22年・・・1月にポールハリス 他界

昭和24年・・・水曜クラブは東京クラブとして復帰

昭和27年・・・故米山翁の意志を継ぎ、留学生支援制度の開始を決議

昭和42年・・・R I は(財)米山記念奨学会を承認

Rotary



# [戦後の日本ロータリーの歩み 1]

## 戦争から解き放たれた日本

欧米資本主義、大胆な教育改革が導入⇒社会、経済は瞬く間に躍進を開始

## 東京クラブの復活

マッカーサー元帥（東京クラブ名誉会員）、吉田首相の祝電が披露され

- ⇒日本経済界の社交場として、政治家、大学教授、弁護士、税理士、医師  
宗教家、企業人、など 知識人や社会的地位の高い個人事業者が中心となり  
ステータスを持った指導的 経営者集団 のイメージが 確立
- ⇒華々しく、新クラブとして復活例会が開催され、例会場は帝国ホテルに決定

# [戦後の新たなロータリーの歩み 1]

GHQ統治下の中、戦争からの復興を急ぐ日本経済

➡大都市を中心に驚異的経済成長を遂げる(朝鮮半島での戦火)

➡例会は、戦後日本経済界のトップ集団による情報交換などから

その後の高度経済成長を支える「場」として機能

➡高額な年会費にも関わらず、絶えず入会希望者は増え活性化する

➡新規入会には 1業種1社の厳格な規定と複数会員の推薦状が必要



# [戦後の日本ロータリーの歩み 1]

ロータリークラブへの入会がかなうこと自体

⇒社会的ステータスの獲得とみなされた

地方に広がったロータリーへは、地域の有力者や知的職業人の入会が続き

⇒庶民とはかけ離れた、いわゆる「憧れのロータリークラブ」が形成



欧米文化に裏付けられた名誉集団として、地方での設立は歓迎され

会員数で米国に続く世界第2位のロータリー大国へ

## [戦後の日本ロータリーの歩み 2 (拡大は全国へ)]

日本経済は大都市を中心に驚異的發展を遂げ、地方へと広がってゆき

同時にロータリー網も全国津々浦々まで拡大

➡胸に栄光の金バッジを付ける＝成功者の証

➡商工会議所、青年会議所を中心に地方経済のトップリーダーが加入

➡地方でも、医師会、弁護士会、税理士会など知識職業人を中心に結成

**ロータリー」は日本経済の底上げに貢献**

# [戦後の日本ロータリーの歩み 3]

大都市を中心に驚異的发展を遂げたロータリーだが、成長に伴う負の拡大の翳が表面化する

- ➡徐々に一般庶民からかけ離れた「憧れのロータリー」が形成
- ➡1990年代に入り地方での増強に翳が見え始め  
会員増強活動は拡大路線へとシフト変更される
- ➡拡大戦略には子クラブの創設が推奨される
- ➡新クラブ創設はガバナーに強く推奨された
- ➡職業分類は拡大解釈でアドイショナル会員が増大

# [昨今のロータリーが抱える悩み]

全国にロータリー網は広がったが、理念無き会員増強も拡大

1. 入会の際にロータリアンとしての倫理観を軽視
2. 例会出席は権利から義務出席に変化
3. 既存会員と新会員の間に価値観の相違が芽生え  
クラブ内にグループ化が表面化
4. クラブ全体に一体感が無くなり例会が仲良し食事会

# [昨今のロータリーが抱える悩み]

入会の際の基準は緩く、倫理基準より経済理念が優先。

数ありきでの新会員が増加

1. ベテラン会員と新会員の間に

➡ロータリーに対する認識違いが存在

2. 入会の際の基礎知識や規則はそっちのけで、

➡断り難い状況や半強制的な紹介による事例

# [昨今のロータリーが抱える悩み]

ですからいざ入会してみると

1. 声がけ下さる仲間が少なく孤独で楽しくない
2. 会員間で使われる専用言葉が理解出来ず戸惑いがある。
3. 例会でグループに入れず、誘われた雰囲気とも違い仕事に繋がらない
4. 入会前に聞かされた感覚とのズレを感じる



期待や希望に満ちた気持ちと反する場面が多い結果3年未満で退会する会員が増大

# [昨今のロータリーが抱える悩み]

更にはロータリアン同士による

1. Vocational Serviceを職業奉仕と訳した理解不足
2. いわゆる23－34問題に関し解釈による理解不足
3. 「アイサーブ」など言葉と知識の理解不足による誤った派閥形成
4. ライオンズクラブとの活動内容の相違から派生する理解不足



度重なる不況や人手不足など自社内での様々な事情から、惜しまれての退会になってしまった例

# [昨今のロータリーが抱える悩み ～誤った増強～]

社長さん達の社交場⇒友人が増え事業繁栄の足掛かり  
とりあえず入会⇒嫌ならすぐに退会（安易な誘い）  
クラブ内には財界人が多い⇒あなたに相応しい環境  
頑張ったご褒美的感覚の入会⇒名誉名声を得たい



# [明日のロータリーへ向けて]

1973年の第1次オイルショックは国際関係に新たな緊張

1979年の第2次オイルショックは世界的規模へ拡大し

1989年から始まるバブル経済の破綻は社会問題に発展し

2009年のリーマンショックでは多くの仲間が去りました。



20年を経過しても未だロータリーの本質は曖昧のままで  
単に会員数の増減だけに一喜一憂の現状があります。

## [明日のロータリーへ向けて]

人口減から、街や集落が崩壊し後継者不在、老舗企業の移転と更には何代も続いた商店街の閉鎖など、2790地区が抱える問題は何ら解決出来ていません。

だからこそ今が大切で安易な増強を厳に慎み自らが望み希望に満ち溢れた若きロータリアンの入会と育成に取り組む時だと思うのです。

# [各クラブ単位で取り組むべき増強対策]

新たな若年層新会員への増強施策にクラブ全体で取り組む時

～ロータリーの基本的立ち位置と理念の再確認が重要～

- ①ロータリーは奉仕団体であるとの自覚
- ②入会に際し、定款、細則の説明に十分な指導を行う
- ③目先に捕らわれず、規約に基づく入会審査に努める

十分な審査から、ブレない、未来を見据えた  
若きロータリアンの育成こそ、今デショ！

# [各クラブ単位で取り組むべき魅力ある例会]

若年層新会員へ対して将来を見据えたリーダー育成

～基本的立ち位置と理念の再確認～

- ①会員全員による例会出席率100%を目標に
- ②クラブ会員全員で取り組める事で個々人の意識
- ③会員同士の細やかな連絡から休み癖を一層する

一人一人が個人的に取り組めることで例会出席が中心のスケジュールでクラブも会員も変わるはず。

# [各クラブ単位で取り組むべき増強対策]

1. 休まれた会員は皆でサポート・・・電話やメールで。
2. 昨今パソコンはどうも...というベテラン会員には、クラブ全体で支え、メール、ライン、フェースブックなどITへの取り組みを試みる
3. SNSに強いクラブは活性化している様にも思えます。
4. 年齢を重ねると面倒なことにチャレンジしなくなりますこれからはスマホIT時代が到来します
5. 携帯で写した写真を転送できますか？アルバムつくれますか？

私も含めてITは中々難関ですが、だからこそクラブで取り組んで下さい。

それこそロータリーは大人の学校ですから。



# [各クラブ単位で取り組むべき増強対策]

## クラブ会長、クラブ幹事の重要職務

- 会長、幹事さんはクラブ出席状況を把握休みがちの会員と連絡をとり、声掛けをしてあげてください。
- 電話が厳しい場合もあるかと思います。その時役立つのが先ほど申したSNSです。また例会が楽しくなるようプログラム委員会と積極的に会話して下さい。
- プログラムの充実は例会の活性化における重要項目です。委員長任せにせず、個人的知り合いや他クラブでの卓話状況など会長同士での交流も必要です。

# [各クラブ単位で取り組むべき増強対策]

## 例会を取り仕切るSAAの重要職務

SAAの役割は大きく活性化における実質責任者と言っても過言ではないと思います。

ドアクローズの指示や例会時間の厳守、途中退席の状況、例会が盛り上がる重要要因となる食事の内容、出来ればニコニコBOXの管理、プログラムの提言、クラブ行事の管理などなどです。昨今SAAが、例会時の司会だけで終えている様に感じています。

# [各クラブ単位で取り組むべき増強対策]

## 委員長の重要職務

毎月1回、例会後でもかまいません。必ず委員会を開催下さい。会長から委嘱された委員会がちゃんと機能しているか、まずは委員の方々と何でも語り合っ意見交換から仲間意識が生まれると思います。

入会間もない会員なら最初はロータリー理論や仕組みなど戸惑うでしょう。しかし、例会に出席し続けることで、必ず何かをつかみ理解できるようになり、本物の価値観を持つことになるでしょう。私たちがそうだった様に。



## [各クラブ単位で取り組むべき増強対策]

昨年度、会員増強維持拡大委員会がまとめた「会員維持のための体験集」によれば、漆原ガバナー、諸岡直前ガバナー、梶原エレクト、他、地区役員の方々でも入会当初は良く解らなかったと告白されており、様々なきっかけで、例会を楽しみ地区への出向するようになったと書かれておられます。

まさに今私たちがなすべきヒントがそこにあると感じます。

# 「和而不同」

論語にある

「子曰く、君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」の和同の精神こそ今必要では無いかと思われます。

# [ロータリーは世界をつなぐ]

昨年度RI会長のダニエル・マローニさんが掲げられたテーマは「ロータリーは世界をつなぐ」でした。

P・ハリスが見知らぬ大都会のシカゴで求めた理想は「つながり」でありロータリーを創設した最大の理由です。ロータリーという大きな器の中で、新しい友と出会い、時には語り合い、そして友情を育むことでロータリーの礎である「つながり」が生まれるのではないかと思います。

「長時間、御清聴を賜り有難うございました。」

八千代ロータリークラブ会員の  
の増々の発展と、本日お聞き下さったロータリアン諸氏皆様  
のご多幸を祈念申し上げ、つたない卓話を終わらせて頂きます。